

事業名 四国・中国・近畿ブロックの重度障害児者を対象とした芸術文化活動
「訪問カレッジ・オープンカレッジ @ 愛媛大学」

団体名 国立大学法人愛媛大学
所在地：愛媛県
団体URL: <http://treasure.ed.ehime-u.ac.jp/>

Outline

事業概要

四国・中国・近畿ブロックの重度運動障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児および重度知的障害児者を対象に、学習の場を提供する「訪問カレッジ」と、学習の成果を他者と共有する「オープンカレッジ」を企画・運営しています。「訪問カレッジ」では、対象者のご自宅等にスタッフが訪問し、個に応じた方法を模索しながら文化芸術活動を実践してきました。障害が重度であっても、主体的に文化芸術活動を実践できる社会・仕組みづくりの創出を目指しています。

本事業で実施した内容

訪問カレッジ

開催日：利用者の希望日を調整の上、月1回程度
会場名：愛媛県松山市を中心に、
利用者の希望する場所（ご自宅等）へ訪問
対象：「訪問カレッジ」利用者
募集定員：若干名
参加費：無料
参加者：お子さん利用者数：22名、通算：27名

7月12日：職員5名
7月29日：4名(視線入力装置使用2名、
スイッチインタフェース使用2名)
8月20日：4名(視線入力装置使用2名、
スイッチインタフェース使用2名)
9月17日：3名(視線入力装置使用1名、
スイッチインタフェース使用2名)
10月24日：1名(視線入力装置使用1名)
11月24日：4名(スイッチインタフェース使用1名、
iPadアプリでの制作活動3名)
12月6日：1名(視線入力装置使用1名)
12月12日：1名(iPadでタッチ相撲対戦1名)
12月14日：1名(大学ゼミの見学1名)
12月27日：1名(スクラッチアート、クリスマスソング
のピアノ演奏ゲーム1名)
1月11日：1名(オープンカレッジの大学ゼミ
疑似体験1名)
1月13日：1名(ハーバリウム、クリスマスソングの
ピアノ演奏ゲーム、iPadでタッチ
相撲対戦1名)
1月16日：4名(Tシャツ作り3名、視線入力1名)
1月18日：1名(オープンカレッジの大学ゼミ疑似体験1名)
1月25日：1名(オープンカレッジの大学ゼミ疑似体験1名)



写真キャプション

実施内容

- ・視線入力の絵描き：視線入力装置を使用して、塗り絵やミニゲームを行いました。
- ・視線入力のカード作り：視線入力装置を使用して塗り絵を行い、事務局でその絵をポストカードにして本人にお返ししました。
- ・スクラッチアート：葉っぱを紙の下に入れて鉛筆で擦るゲームを実施しました。
- ・ハーバリウム：ドライフラワーを瓶の中に入れて、オイルを注入して保存して飾るゲームを実施しました。
- ・クリスマスソングのピアノ演奏ゲーム：iPadのピアノ鍵盤をタッチして曲を演奏するゲームを実施しました。
- ・Tシャツ染めゲーム：布用の着色料を使って真っ白なTシャツに好きな絵を描いたり、色を塗ったりするゲームを実施しました。
- ・iPadでタッチ相撲対戦：タッチで相撲対決ができるゲームを実施しました。
- ・オープンカレッジの大学ゼミ疑似体験：学校の授業の参加体験を実施しました。



本事業で得られた成果

視野を広げ、多くの人とコミュニケーションする機会が増加

重症心身障害のある方は、特別支援学校や放課後等デイサービスといった施設以外の社会とのつながりが少ないのが現状です。「訪問カレッジ」では、利用者のご自宅等のご希望の場所に訪問し、芸術文化活動・ワークショップ等を行うことで、部屋の外の世界や感動する体験などを利用者に体感してもらってきました。多くの利用者は、笑顔を見せたり、発声したりして、訪問中に使っている道具に興味を示しました。訪問するボランティアスタッフは、特別支援学校教

員や退職後の精神科の看護師、保育士、福祉施設のスタッフ等、専門知識のあるスタッフから特別支援学校教員を目指す大学生まで、幅広いスタッフがいます。そのため、利用者は年齢、性別、所属等、幅広いスタッフと交流することができ、毎度の訪問カレッジで良い刺激を受けること

ができました。また、毎回訪問後には、スタッフ同士で今回の反省点や次回以降の支援計画等について打ち合わせを行いました。困ったことやわからなかったことがあれば、訪問教育や特別支援教育専門の大学教員から助言をもらいながら、より良い学びの場となるよう取り組んでいます。



写真キャプション

十人十色!「私」の感動を作っていきます!

訪問カレッジでは、重症心身障害のある利用者が創作に取り組めるよう、さまざまな工夫をしています。ゆび筆という指につける付け外し可能な筆を使ってオリジナルTシャツも作ってみました。参加した利用者は、好きな色を選んで白地のTシャツにたくさん描いていました。また、ものづくりの大好きな利用者は、初めてドライフラワーと

天然石ビーズを使って、ハーバリウムを作りました。初めての制作ですが、とても丁寧に綺麗にできました。身体障害で普段は芸術創作に苦手意識を抱えた方でしたが、完成品を見て思わず「わ!かわいい」と喜ばれていました。その他にも、愛媛県障がい者ICTサポートセンターと連携し、視線入力装置や入力スイッチ等を活用し、製作活動に取り組みました利用者もいました。



写真キャプション



写真キャプション

Point

本事業を実施する上で行った独自の工夫

本学では、文部科学省より「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」を受託し、特別支援学校等を卒業した重症心身障害者の生涯学習を支援する取り組みとして「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」を実施してきました。そのノウハウを活かし、重度重複障害のある方

が年齢を問わず学び続けられる仕組みづくりを模索しています。また、新設の「愛媛県障がい者ICTサポートセンター」と連携し、利用者に対し、入力スイッチや視線入力装置等のICT機器を活用した取り組みを行いました。